

- 北条ぶどう生産部では栽培面積や販売額の減少が続いており、栽培に欠かせないハウス施設は耐用年数を過ぎて老朽化が進んでいる。
- このため、生産者、関係機関で構成する「北条ぶどうを考える会（以下、「考える会）」を作り、産地の課題の共有と解決の方向性の検討を行った。
- 検討した内容を生産部総会で提案し、平成30年度は生産部が中心となって課題の解決策を進めることになった。

具体的な成果

- 1 「考える会」で検討した解決の方向性を生産部総会で提案し、生産部への意識づけができた。

課題	主な解決の方向性
➢ハウスの老朽化対策	補強技術を開発し、普及する ・専門家と連携し、補強技術を開発 ・補強方法の実証展示、研修会を開催
➢後継者の育成確保	就農希望者(親元就農、外部からの就農)の受け入れ体制をつくる ・受け入れルールの作成 ・生産部で空き農地(ハウス+樹)の情報を把握 ・就農後の勉強会などのフォロー体制の構築
➢所得向上	高単価販売、ブランド力の強化、品種構成の検討 ・進物率アップなどの販売方法の見直し ・イベント開催やPRの企画 ・シャインマスカットの推進計画の作成

- 2 平成30年度は生産部が中心となって課題の解決策を進めることになり、実践に移す具体的な行動計画(地域プラン)を作ることになった。

- 3 ハウスの老朽化対策に補強技術の開発・実証事業を予算要望し、事業化できた。
＜事業内容＞
・専門機関と協力して補強技術を開発
・補強方法の実証展示と研修会を開催

普及員の活動内容

- 1 産地の現状把握と課題整理
・生産者から産地の現状や思いなどの聞き取りを行い、目標や課題を整理した。
・生産部員へ後継者の有無やハウスの現状などについて、アンケート調査を行った。

- 2 7月から「考える会」で検討会を開催

第1回	検討課題の整理、意見交換
第2回	ハウスの老朽化について意見交換
第3、4回	アンケート結果 後継者育成・確保についてグループ検討 ①産地をどう引き継ぐか ②後継者の育成方法
第5、6回	所得向上についてグループ検討・意見交換 ①販売方法の工夫 ②ブランド化の推進 ③10年後の品種構成
第7回	全体まとめ

今後の普及活動に向けて

- 1 産地の行動計画作成を支援

